

福祉サービス評価について

和歌山県福祉事業団では、平成17年度より、事業団評議員による施設サービス評価委員会を設置し、普段職員が気付かないこと、不十分なことを第三者の方から助言・提言していただくことで利用者の方の権利擁護と生活の質の向上を図ることを目的に施設のサービス評価を実施しました。その評価における総評ならび、今後取り組んでいかなければならない事柄（改善すべき項目、助言項目）に基き、施設の今後の取り組みを公表いたします。

実施日 平成29年12月5日（火）
施設名 ふうか
評価者 深瀬 幸子（事業団評議員・NPO法人はまゆう作業所副理事長）
公表日 平成30年6月

総 評

事業所内は適切に整理整頓され、必要な遊具等が設置されていました。クッション材の活用等、安全面においても配慮された環境となっており、利用児が安全にのびのびと療育活動ができる環境となっていました。

地域の中心となる児童発達支援センターとして保護者の思いや不安を受け止め、発達段階に応じた専門的な支援や助言等が提供できるよう積極的に取り組みを継続して下さい。

29年度 福祉サービス評価

項 目	評価の内容	項目に対する今後の取り組み	目標期限
環境面	活動室やトイレ等、適切に清掃されているとともに各発達段階に応じて整理整頓を工夫されていることが伺えました。	個々の障害特性を十分に把握し、必要な視覚支援、環境設定を行い、安全に楽しく活動できるよう取り組みます。	継続

<p>地域交流</p>	<p>地域の保育所や幼稚園等との交流について保護者の障害受容等への思いや悩みに配慮され、その必要性を検討されているとのことでした。今後においても当事者の思いに配慮し取り組みを深めて頂きたいと思います。</p>	<p>障害の特性から地域への入園を見合わせた方も居ます。さまざまな思いが交錯されながらも地域の園との交流を希望される方もおられ、地域の中で生活していることを意識しながら、地域、他者、同年齢の子供たちと触れ合う事が出来るよう、またセンターとしての役割を担い、遂行できるように取り組みます。</p>	<p>継続</p>
<p>関係機関との連携</p>	<p>学校等の関係機関とのケース会議や情報交換を積極的に行っているとのことであり、児童発達支援センターとして地域の中心となる役割を担っている様子が窺えました。</p>	<p>さまざまな問題や課題を抱えた利用児を受け入れることもあります。子供たちの地域での生活を支えられるよう、相談支援員も含めそれぞれの役割を遂行し、今後も各関係機関との連携を図っていきます。</p>	<p>継続</p>